

～ 生産性向上は秋の草地管理から～

JA道東あさひ営農センター
根室農業改良普及センター

こんなことはありませんか？

- ・融雪後のほ場の乾燥が遅く、**春の施肥作業が遅れる。**
- ・雨が降ると**滞水して乾きが遅く、ほ場になかなか入れない。**

大型機械の走行が繰り返されると、ほ場には一定の深さまで硬盤層が形成されて、透排水性が低下します。長年草地更新がされていない永年草地ほど、この硬盤層の影響が大きくなります。作物にとっても

- ・地温が上がりにくく、肥料や有機物の分解が遅れる。
- ・根に酸素が届かず、生育不良となる。
- ・根が深く張れないので干ばつに弱い。

などで、生産性低下の原因となることが知られています。

そこで**物理性改善**に取り組みましょう！



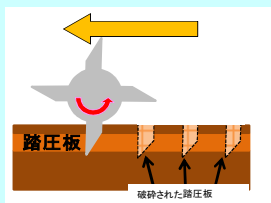
草地活性化機械紹介 (JA 道東あさひ所有)

エアレーション

(機械の名称:エアベーター)

○ルートマットを切断して、根域の通気性を改善するとともに、切断によって根の再生を促し、牧草の活性を高めます。

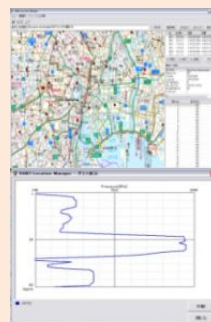
表層の堅くしまった土塊も破碎します。特に放牧地などは、地下5cm位に硬盤化していることが多く見られますので表層の通気性改善対策をこの時期に行いましょう。



土壌硬度測定

(機械の名称:GPS 付デジタル貫入式土壌硬度計)

○土壌硬度計は、草地に対し垂直に押し込み測定します。また、GPS 機能付のため、位置情報を取得することができます。取得したデータはパソコンで処理し、下図のような地図やグラフ表示も可能です。



心土破碎

○硬盤層の下まで「ナイフ」を通して破壊し、透排水性と通気性を改善します。

効果を高める施工条件

- ① 土壤水分が低い時に行う。
- ② 「ナイフ」の間隔は狭いほうが良い。
- ③ 走行速度はゆっくりと。



(機械の名称:カルチプラウ)

※4本爪1台(概算あり)。3本爪3台は10月中旬納品予定

○オフセットブレードが表面を崩さずにマットを持ち上げ、持ち上げられた時に外気を取り込み地力の向上につながります。持ち上げられたマットは後ろのローラーにより押さえられるので畑がきれいに仕上がります。



(機械の名称:サブソイラー)

○深さ 30~60 cm の 3 本爪を入れ心土破碎します。これにより不透水層(水を通さない部分)を壊し、排水性を向上させ、根の張りを良くします。

※同様の機械『パラソイラー』、『アースクエイカー』も所有しております。

草地についての問い合わせ・機械類の貸出申し込みは JA 道東あさひ各支所営農担当職員、営農センターまでお願いします。

【営農センター TEL0153-79-5525】

